

Bits
0

2 「おい、面白い裁判だったな」

3 「面白い？」

2 「人殺しってことよ」

3 「あの顔してね」

鍵を開け、扉の開く音。

十二人入って来る。

「十二人の怒れる男(3人)」

原作…レジナルド・ローズ p

上演台本…永妻晃

Bits
1

ドアが閉まり、鍵を掛ける音。

2、後ろを振り返り、

「あッ……あいつ鍵閉めたぜ」

1 「当然でしょう」

2 「へえ、隔離状態か？ こんなはっきりした事件を弁護士の奴長話しやがって」

1 「席に着いて下さい……じゃ、はじめます。ではメモをくばります」

2 「何すんだよ？」

1 「無記名投票用紙ですが」

2 「そんなのまじろっこしいよ、挙手！」

1 「皆さんは？」

3 「わたしもそれで……」

2 「早く決めようぜ、みんな忙しい身体なんだ」

1 「この事件は……」

2 「第一級殺人で有罪の評決を出れば奴は死刑だ」

1 「あなた、黙って！」

2 「了解！」

1 「えー、有罪、無罪どちらの評決でも全責一致が条件です」

2 「有罪！」

と手を上げる。

1、2を無視して、

「……では、有罪の人は……」

3以外、挙手。

一同、3を見る。

1 「有罪が十一人……無罪は？」

3、手を挙げる。

Bits 2

2 「(3)に おいー！」

1 「無罪、一人。本当に無罪だと思うんですか？」

3 「解りません」

2 「何だこの野郎！」

1 「どういうことですか？」

2 「お前、法廷で寝てた」

1 「父親の匂を」

1 「どうしたいんですか？」



「証拠は山ほどあるんだ！」

10センチも刺したんですよ」

法廷で聞いたでしょ。

あの子は人を殺した」



3 「話合いましよう」

2 「へ、あきれれるね、今さら……」

3 「私が有罪に投票するとあの子は死刑だ」

2 「死刑の何処が悪い！」

3 「あなたね……」

2 「何だよ〜！」

3 「人の生死を五分で決めて、評決が間違っていたらどうするんです？」

2 「どこが、間違いだ ええ、どこが間違いなんだよ！」

1 「(2)に あなたね、少し落ちついて」

3 「一時間話し合いましよう」

3、柱時計を差して、

「現在、5時15分ですから、6時15まで、でないと私は無罪を押し通します」

Bits 3

2 「みんな聞いたか、どういう奴だこいつは?！」

3 「私はね、彼の証言から有罪を確信しています。つまりあの子の言葉の中に無罪の証明が一切ない」

3 「有罪こそ証明が必要でしょう」

2 「理屈こねやがって！」

1 「みなさん、意見は？」

2 「よし分ったよ。一時間だ……話し合おう！」

1 「分かりました……それで？」

3 「被告の少年は悲惨な人生を送って来ています」

2 「だから何だッ？」

3 「スラム街に生まれ、九歳で母と死別。父親は文書偽造で服役」

2 「そんな話は法廷で何べんも聞いたよ」

3 「(2)に構わず)その間、彼は福祉施設に預けられていた。彼は不幸な幼年期を過(して)います」

2 「今度俺の不幸話もたっぷりと聞いてもらおうか、機会があったらな」

3 「少しは彼の事を考えてやっても」

2 「ちよつと待つてよ。人殺しに何を考えてやれって言うんだ?！」

1 「あなたさ、何故彼が無実なのか言って貰えますか? 目撃者がいる。まずその一つ、下の階に住んでいる


そして奴(あの子)が『殺してやる』と叫んだ直後に人が倒れる音がした。警察が駆け

ついで、現場で死んでいた。まだ十八歳なのは同情するけど罪は償わないと」

2 「それにな……」

1 「(2)に割り込んで)向かいのビルの女性の証言が何よりの証拠だと思えますよ。彼女は少年が人を刺すところを窓から見ている」

2 「見てるんだよ!」

3 「は高架鉄道を挟んだ向かいのビルです。その時電車も通過していた」

1 「その車両(白黒)に乗っていなかった。彼女の部屋から電車の向(こう)は見えず、と証明さ(す)る。少年は動機もなく人を殺さない。少年の隣人たちの証言では、少

年と父親は喧嘩していた。大声で、罵り合っていた。夜の八時頃です」

2 「オヤジと倅が大喧嘩して、頭にきたオヤジがガキを二回ぶん殴って、少年は怒って出て行った……」

1 「そう、それが事件の発端ですよ」

3 「しかし、少年は小さい頃から何度も殴られていて暴力は生活の一部です。たった二回殴られたぐらいで殺しますか？」

1 「限度だったかもしれませんが。限度……分かりますね」

2 「奴が犯人に決まってるだろ。前科を見なよ。ひつたりとナイフの乱闘で施設送りだ。

(3を論す様に) ナイフは名人だそうだ」

3 「本気で言ったんでしょうかね」

2 「何を？」

3 「ですから、本気で父親に『殺してやる』と言ったんでしょうか？」

2 「ああ、本気だよ、だから殺した！」



1 「家庭環境、事件を犯したとしても犯罪は犯罪ですの巢です」



「スラム街は犯罪

2 「スラム街の奴らはグズだよ、社会に必要なはない！」

3 「私もスラムの出身です」

2 「ほー、なるほどな、なるほどなるほど?!」

Bits
5

3 「だからといって彼の見方をする訳でもありません。私はただ正しい評決を出したいだけですよ」

2 「おい、寝ぼけたことを言うなよ。立派な裁判をやったろうが、金も掛つてんだ！」

3 「私は法廷の六日間の証言を皆さんと一緒に聞いて来ました。しかし、その証言の中に確かな証拠はないと思いはじめたんです」

2 「おい、おい、おい！」

3 「弁護士も充分に反対尋問をしていません。すべてに見逃しが多過ぎます」

1 「質問なんかしたら、余計不利になるからじゃないんですか？」

3 「私なら弁護人を替えます。命がかかっているんだか、人を叩きのめして



犯人を見た証人は女性一人だけで、は声を聞いたとか、人が倒れる音がしたとか、状況証拠だけですよ。もし、間違っていたら？」



もう一人の老人

2 「間違える？」

3 「人間は間違えを犯すものだ」

- 2 「間違っていない!」
- 3 「絶対に?」
- 2 「絶対なんてあるわけないだろうが!!」
- 3 「(トトト) そのとおりです」

Bits 6

- 2 「(3)を睨み じゃ、肝心な話をしよう。いいか、父親の胸に刺さっていたナイフは少年



「(3)のナイフを認めている」

- 3 「証拠のナイフは(3)にありますか?」

- 2 「どうするんだ」

- 3 「もう一度確認をしたいだけです」

- 2 「いいだろう」

- 1 「用意させます」

1、ドアの所に行つて、係員に何か言っている。

- 2 「手を挙げて() いいですか」

- 3 「何か?」

- 2 「もう一度、そうあなたが納得するように、もう一度、順に考えてみましょうよ。父親に何度か殴られて……」

5

- 3 「二回」

- 2 「そうだ、二回殴られて、午後八時に少年は家を出た。そのまま中古店へ行きナイフを買った。それは普通のナイフじゃない。珍しいナイフです。店の主人も『あんなナイフは初めてだ』と言っています。ナイフを買った後、少年は十一時半に映画を



観て午前三時十分に帰宅し逮捕された。ナイフは映画へ行く途中で落としたと言っている」

- 2 「嘘だな」

1、ナイフ証拠写真を係員から受け取り戻ってくる。

- 1 「そう、映画館へも行かなかったと思いますね。



出演俳優も、題名も覚えていないだから、本当はナイフを買った後、家に戻つて父親を刺し殺し、午前十二時十分

に家を出た。本当にあの子がナイフを落としたと(3に) あんたは信じてるの?」

Bits 7

- 2 「たまたまそのナイフを拾った人間が少年の家で父親を刺したとも言えるのかよ?」

- 3 「誰かが似たナイフで刺したとか……」

2 「まさか……笑わせるなよ？」

1 「見て下さい……本当に珍しいナイフです」

2 「そんな偶然がある訳ないだろうが！」

3 「可能性はあります」

2 「奇跡でも起きない限りない！」

3 「そうですね」

1 「同じナイフがあるっていうの？」

2 「馬鹿言いな！」

3、懐から、布くまに包ましのナイフを取り出す。布をくるくると剥ぎ、同じのナ

イフを一同に見せる。

一同、騒然。



1、証拠のナイフを見比べる。

1 「同じだ？　これ、どこで？」

3 「昨夜、少年の家の近くの質屋で買ったんです。二十ドルでした」

1 「同じ様なナイフで誰かが父親を刺した？」

2 「無い、そんなことは！」

3 「さあ、どうでしょう。現にこうやって同じナイフが眼の前にあるじゃないですか」

1 「確率は低いけど、可能性はある」

2 「こうなったら評決不能にしようぜ、疲れた。必ず再審で有罪になるぞ」

Bits
8

2、柱時計を指し、

「おい、あんたの言った約束の時間だ。さあ、お開きだ！」

1 「ちよつと、待って下さい。ナイフの件は？」

2 「一晩中ここに居る気かよ？」

3 「人の命がかかっているんですよ」

2 「ナイフなんかどうでもいいだろ。実際に犯人を見た女性の証人がいるんだ！」

1 「そうだった」

2 「いいか、目撃者がいるんだ……どうする！」

3 「……提案があります」

1 「何ですか？」

すか？」

2 「こいつ、変だぜ、話になんねえや？」

3 「あなたね、向かいの女性の証言があるでしょう。車両の窓越しに少年が父親を刺すのを見た。それで十分でしょ」

3 「いいえ」

1 「何か確信があるなら言ってみて」

3 「高架鉄道がある一点を通り過ぎる時間は？ ああ、一点と言うのは殺人が起きた部屋です」

1 「何か関係があるんですか？」

3 「何秒だと思います、電車が通過する時間です？」

1 「さあ？」

3 「居るであろう人に分ります？ そつ、約8秒弱かかります」

Bits
10

2 「今度は、何のゲームだ？」

3 「いいですか、6両の電車が、ある一点を、殺人現場の部屋を通過するのに約8秒弱……線路際に住んだ経験のある方はいますか？」

1 「以前、高架鉄道を見下ろす部屋に住んでいたけど」

3 「電車が通過する時に他の音は聞こえましたか？」

1 「何も聞こえないよ。電車の音がうるさくてさ」

3 「二つの証言を結び付けます。第一、階下に住んでいる老人が『殺してやる』という叫び声を聞いた直後、人が倒れる音を聞いている」

1



3 「『第二に、向かいの女性は窓の外を見ていて、最後の2両越しに殺人を目撃し

1 「それがどうしたって言うの？」

3 「最後の2両越しに殺人を見たなら、倒れた時、電車はちょうど通過中だった。いいですか、老人は少年の『殺してやる、と言う叫び声の直後に人の倒れる音を聞いた』と証言しています……電車の通過中では不可能だと思いますが」

2 「大声で叫んだんだよ、大声で!!」

1 「無理ですよ。テレビのボリュームいっぱい上げたって聞こえないんだから(もの)」

2 「いいか、何べんも言うが!」

1 「落ちついて！」
2 「うるせえ！ 爺さんはな、確かにガキの声を聞いたんだよ、だからドアまで走って行って奴を見たんだ」

3 「待って！」
2 「何だ！」

3 「“ 爺さんが走った ”？」

Bits 11

3 「どうしたんですか？」

1 「もし、もしも……ですよ、あの老人が嘘をついていたとしたら……」

2 「何だ?!」

1 「老人の足取りを覚えていますか？ 老人はゆっくりと証言台へあがった。そう、左足が不自由なのを人前で隠そうとしてね」

2 「足が何だって」

1 「足をね、少し引き摺っていたんだよ。気が付かなかったですか？」

3 「(思い浮かべ) 確かに」

1 「老人は身体が不自由な事を恥ずかしいと思っていたんじゃないでしょうか？」

3 「待って下さいよ(と、考える)」

2 「今度は何だ！」

3 「やりましょう」

1 「何をです？」

3 「……試すんです」

1 「試す？」

3 「ええ、脳卒中で足の不自由な老人が、15秒でベッドから玄関まで行けるか？」

2 「20秒だろうが」

1 「いや、15秒と百慢げに言っていました！」

2 「もうろくしている爺さんだ、信用できるか！」

一同、2を見る。

2、バツの悪い顔。

Bits 12

3、ポケットから手帖を出し、



「ベッドから寝室のドアまで3.6メートル、廊下から階段のドアまで13メートル、合計16.6メートル。これを15秒で歩けるか？」

2 「歩けるだろ」

3 「老人にしては長い距離です。(1)が立つ、3歩いて(2)が寝室のドア。(3)が立つ(2)廊下を測ります」

2 「何をやるつもりだ？」

3 「時間を計ります……玄関の位置は(1)。チェーンがかかっていた。秒針付きの時計を
持っている方は？」

1 「私が……」

3、ベッドの位置に着き、

3 「ではいつでもいいですから、合図をして下さい」

1、時計を見つめている。

1 「どうぞー！」

3 「ベッドから起き上がる」

3、ベッドから老人が起き上がる動作をして、足を引きずり歩き出す。

1 「5秒経過」

2 「もっと早く歩いてたぞ」

3 「了解！」

3、少しスピードをあげる。

1 「10秒経過」

1は15秒を過ぎてしまったのでそこで立ち止まる。

3、ドアの位置まで来て止まり、

「ドアチェーンを外す、ドアを開ける、ストップ。時間は？」

1 「31秒です」

2 「……?!」

Bits
13

1 「あの老人が嘘をついた?! いや、事件を知って、少年の声を聞き、人が倒れる音がしたと、思い込んだ」

3 「居るであろう人を見て あなた……無罪、分かりました」

2 「居るであろう人を見ろ」!!

1 「9対3になりました。確かに法廷の証言では少年は有罪に思えたけど、よく考えりゃ、なぜ逮捕されたのに家に帰って来たのかもおかしい」



2 「刺したナイフを取りに帰ったんだよ」

1 「なぜ、現場にナイフを残したんです？」

2 「父親を殺してパニック状態で逃げ出したんだよ」

1 「そんなに慌ててましたか、指紋をふき取る冷静さはあったんですよ」

3 「そこが不思議なんです。もし、少年が犯人なら、何故ナイフを死体に残し、指紋をふき取ったんでしょうか？」

1 「そうですね。ナイフを買った事は、店の主人が知っていますからね。少年の父親に恨みを持った誰かが……ほら、『文書偽造で服役していた』ってありましたよね。その被害者の誰かが、偶然同じようなナイフで少年の父親を殺し指紋を拭き取った、どうですか？
これなら理屈に合う。それと、恨みではなく強盗だとしたら？」

2 「金があるような家じゃないぜ」

3 「お金以外の値打ちがあるもの？」

2 「そんなものがあつたらとくに金に換えてるだろう」

Bits
14

1 「さてよ？ ナイフ以外指紋を拭き取った形跡は部屋の何処にもなかったそうですが……強盗ではないですね。手袋をしていたら？ はじめから父親を殺す気なら手袋を用意していた筈ですね……ところがナイフの指紋を拭き取っている。つまり手袋はしていなかった事になる……これは計画的ではなく衝動的だったという事ですね」

2 「……終わりか？」

1 「はい……」

2 「衝動的だったとしても、犯人ならナイフの指紋を拭き取るなんてしないさ、持ち帰れば済む事だ」

3 「父親は心臓を刺されています。ナイフを抜くと返り血を浴びます」

1 「そうですね」

3 「犯人はその事を知っていた。血だらけの服装で街を歩けません」

2 「それは、少年にも言える事だ！」

3 「ナイフの名人の少年が犯人なら、ナイフを抜き取っていました」

2 「どういうことだ？」

3 「ナイフを抜く時、布を傷口に当てれば返り血は浴びません」

2 「ほう、さすがスラム出身だな」

3 「確かに、少年はパニック状態だったかもしれませんが。向かいの女性の証言では、殺害の直後に彼女は悲鳴を上げている。その声を少年が聞いていて、殺人現場を見られたと
思った。いや、聞こえなかったのか知れない。少年は咄嗟にナイフの指紋を拭き取って
その場を立ち去った。そして三時間後に気持ちが悪くなり、ナイフを取りに戻った」

2 「その通り！」

3 「(しっかりと)でもそうじゃなかったら」

2 「馬鹿を言え！ 随分ホラ話は聞いた事はあるが、こんな茶番劇はじめてだ。みんな
正義に燃えてこの部屋に入ったのに……どうしたんだ！ あのガキは死刑にすべきなん
だよ。電気椅子送りだ！」

1 「ちよつと待って、あなたは死刑執行人か？」

2 「ああ、スイッチは俺が入れてやるよ！」

1 「少年を殺したいだけなんでしよう」

2 「ああ、殺してやるよ!!」

3 「あなたは異常者だ！」

2 「何ッ」

3 「狂ってる！」

2 「殺すぞ!!」

一同、2を見る。

3 「(微笑) まさか、本気じゃないでしょ？」

2、3を睨みつける。

Bits
15

1 「みなさん！ みなさんは争うためにここへ来た訳ではない筈です。郵便の告知でここ
に来た。決めるために……評決で私たちに損も得もありません。これが私たちの強みで
す……私情を交えてはいけません……どうです、また投票しませんか？ 用紙
を……」

3 「口頭で投票しましょうよ、その方が立場がはっきりする」

1 「いいでしょう、反対の方は……」

一同、異存がないようである。

1 「(頷き)では私から……無罪……(居るであろう人)あなたは？ 有罪……あなたは？」

……無罪……(2に) あなたは？」

2 「有罪！」

1 「居るであろう人に) あなたは？ (次) あなたは？ 分かりました、6対6です(3に) ひとつ疑問なのは、犯行時間に観ていたはずの映画を少年は思い出せなかったことです」

3 「彼の立場として、思い出せますかね。父親と大喧嘩をして殴られた後ですよ、しかも警察の尋問じんもんは父親の死体のある寝室でおこなわれたんです。法廷では映画の内容を言えませんでしたよ」

2 「弁護士の入れ知恵だよ、俺は犯行直後の尋問を信じるね」

3 「……」

1 「もう一つ、気になったんですが……ナイフの刺し傷は下に向かって付いていたんですよ……父親は大男で、少年は父親肩ぐらいの身長です……それだけの身長差のある人を上から刺せますか？」

2 「ふん！ 何も知らねえ奴だな。(ナイフを受け取り) いいか、ナイフはこう握るんだ。(逆手に握る) そして、こうだ！」

2、突き刺す仕種をする。

2 「背の差なんて関係ねえ、下向きになってるだろ、納得したか」

3 「納得しませんね」

2、3を睨む。

3、2からナイフを受け取ると、

「ナイフはこうは構えない」

3、2がやった逆手から包丁を握るように持ち替え一同に見せる。

3 「こう握ったものを、こうすると、(逆手にする) 時間がかかり過ぎる……(持ち替え

こう持ったら、このまま……スウツ！」



3、ナイフの突きあげる。

3 「少年はナイフの名人でしたよね」

Bits
16

1 「なるほど」

3 「……投票しませんか？」

1 「……分かりました」

1、一同を見渡し、

1 「無罪の人……1、2、3、3、5、6、7、8」

1、手を挙げて、

1 「9……有罪の人は……（いるであろう人に 1、2」

2、手をあげない。

一同の視線が2に集まる。

1、改めて2に……、

「……有罪の人は？」

2、手を挙げる。

3 「……偏見抜きで物事を考える事は難しいです。偏見で真実がぼやけてしまう。真実は永遠に分からないかもしれません。しかし、九人が被告を無罪と思っている。でも、間違っているかもしれません。犯罪者を釈放しようとしているのかもしれない。三人の方

なぜ有罪だと確信を持てるんですか？ (2に) あなたからお聞きし

たに
「を……」

2 「いいか、女が見てるんだよ。女が……それが証拠だ！」

2、3に怒りの眼を向けるが、顔を反らし、メガネを外すと目の付け根辺りをさすり出す。



Bits
17

1 「……ちよつと……そつだ?!」

3 「どうしました？」

1 「(2に) ちよつとあなたにお聞きしたいんですが」

2 「何だ？」

1 「……何故そんな風に鼻をこするんですか？」

2 「気になるからだ」

1 「メガネのせいですか？」

2 「そつだよ、もういいか」

1 「みなさん、思い出して下さい。

何度も鼻をこすっていましたね

目撃者の女性ですが……あの方も法廷で

3 「確かに……それが？」



- 1 「彼女は60幾つとか言っていましたね」
- 3 「5です、65歳」

1 「公おおやけの場に出るので若作りをしていた。そう思いませんか？ 厚化粧で髪も染め、服装も若い女性が着るような物だった。メガネを掛けるのが恥ずかしかったんでしょね…
…そうですよ」

- 2 「草くさとFエフっていたからってメガネとは限らんだろうが」



- 1 「いや、あれはメガネの跡ですよ」
- 3 「メガネ以外にそんな跡が付きます？」

2 「分かったメガネの跡だでしょう。いいか、若く見せたくて、外出の時は掛けなかったとしよう。しかし殺しを見たときは一人で家に居たんだ。若ぶる必要なんかないだろう」

- 3 「確かに一人でいる時は、若ぶらなくていい。しかし寝ようとしている時ですよ？」
- 1 「メガネをかけて寝る人はいないでしょう」

Bits 18

- 2 「さあ、どうかな？」

- 3 「もちろん外していた」

- 2 「何故分かる」

3 「推測ういそくです…彼女が『何気なく外を見た』。メガネは外してましたでしょう。外を見た
とたん殺人が起きた。メガネを掛ける余裕はありませんよね。彼女が見たという少年は
ぼやけて見えてた筈です」

- 2 「おい、自信ありげだな。お前女の部屋にいたのか…遠視えんしだったら、サングラスの跡
かもしれないだろうが」

1 「たとえ、遠視えんしだとしても、18メートルも離れている人間を夜間に確認できるなんて
そんな人間がいますか？」

- 3 「居るであろう人物に」 どうです、これでも少年は有罪ですか？ ……分かりました」

- 1 「……これで無罪は十一です」

- 3 「(2に) 有罪は、あなた一人だ」

2 「構わねえよ、これは俺の権利だ！ お前ら文句あるのか？ いいか法廷での証言の何
もかもが証拠だ！ 奴は有罪に決まっているだろ。下に住んでいる爺さんがみんな聞いた
んだよ。爺さんはドアまで走って行って奴を見たんだ。秒数なんて関係ねえ。同じナ
イフがあつたからどうした。お前たちの話はみんな大嘘だ！ 何もかも！ 事実をねじ

曲げやがって！ メガネを外した女も宣誓せんせいしたんだぞ！ あの不良は死ぬべきなんだ

よ……いいか、ガキなんか信用するな！」

2は力なくうな垂れる。

一同、憐れむように彼を見つめる。

3、2に近づこうとする。

2、3を手を挙げて制する。

2、虚脱したような声で、

「無罪……奴（あの子）は無罪だよ。決まりだ……」

完